

児童の自尊感情を育む学校研究

—教科・領域での指導や授業の改善を目指して—

清水 香保里

(文教大学教育研究所客員研究員)

School Research for Fostering Children's Feelings of Self-Esteem:
Goals of Improving Teaching Methods and Contents in Subjects and Domains

SHIMIZU KAORI

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)

要 旨

最近のコロナ禍において学校生活は大きく変化した。マスクの着用、手洗いの励行、机の配置換え、黙食など、制限されることは多く、授業形態も変わってきた。児童の心にも、不安やストレスが増えてきた。このような実態から本校では、令和2年度より児童の自尊感情を育む学校研究に取り組んできた。今回は、道徳、学級活動、算数、体育の実践や学級経営の取組の中で、児童の自尊感情を高めるための手立てを考案したものを紹介する。

1. はじめに

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた令和2年2月末、学校はかつて例を見ない3か月の休校に入った。再開後、全児童を半分にした分散登校が始まった。マスクの着用、手洗いの励行、机の配置換え、黙食など、制限されることは多く、授業形態も制限された。今までは当たり前のように顔を付き合わせて話合いが行われてきたが、「離れた距離から短時間で」という制限付きになった。

そんな学校生活の変化は、児童の心にも変化を生み出していることは当然であった。

令和2年度の児童は、学校再開後の6月から健気なほどの手洗いや距離感を持った休み時間を過ごしていた。少しのことで涙ぐむ子や心配になる子が多かった。令和3年度になると慣れもあってか、途中で分散登校になった時も、それほど心配な様子は見られなかった。令和4年度はさらに、コロナ禍3年目の学校生活に慣れてきている。

だが、今までとは明らかに違った児童の傾

向が見られた。例えば、暑くてもマスクを外したがる子、触れられることに抵抗を感じる子、友達からやや強く言われるとすぐにへこんでしまう子。わがままを突き通そうとする子。このような状況の児童が増えてきたことを感じている。さらに、うまく出来ないと学校を休んでしまう子など増えてきたように感じる。

そのような実態から、川越市立川越小学校では令和2年度より、児童の自尊感情を育む学校研究に取り組むこととした。

2. 学校研究の概要

本校は、川越城址の中にある小学校で、市役所、博物館、美術館、中学校、高校が同城址内に隣接する環境にある。児童数は約630名の中規模校で、今年度は創立150周年を迎える歴史ある小学校である。

学校研究は特に熱心で、毎年、市や県の委嘱を受けて研究を行っていたが、コロナ禍となって以来、児童と向き合いながら校内研究

を行っている。「豊かなかかわり合いの中で、今と未来にいきる」という研究課題で、継続して実践を行ってきた。

令和元年度の研究を終えて、児童を見てきた教師たちの課題として、不登校または不登校傾向児童が多いこと、打たれ弱い児童が多いことなどが上げられた。そこで、児童の自尊感情、自己肯定感、または自己有用感や所属感を向上する必要があると考え、令和2年度の研究副主題を「児童の自己肯定感を高める指導の在り方を探る」と設定した。

「自己肯定感」については、様々な捉え方がある。「自分に対する評価を行う際に、自分のよさを肯定的に認める感情。(注1)」、「ありのままの自分を認めること。自分の自分に対する評価。(注2)」また、呼び方も、「自尊感情 (Self Esteem)、自己存在感、自己効力感などの言葉とほぼ同じ意味合いで使われている。(注3)」

このことから本校では、自尊感情と自己肯定感は、ほぼ同様と捉え、自己有用感を育むことで自己肯定感が高まっていくと考えた。

また、自己肯定感は、2種類あると捉えられている。文科省によると、「勉強やスポーツ等を通じて他者と競い合うなど、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感や他者からの評価等を通じて育まれる自己肯定感」と、「自らのアイデンティティに目を向け、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身に付けられる自己肯定感。」(注4)を示している。

そこで、勉強やスポーツ等を通じて他者と競い合うなど、自らの力の向上に向けて努力することで伸びると考えられる分野を算数と体育で研究することとし、他者との比較によって形成されるものではなく、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を認める分野を道徳と特活で、令和2年度は研究することにした。

自尊感情を高めるにはまず、自分を大切にできる子を育てる必要があると考える。しかし、自分だけを大切にし、他をおろそかにする事ではない。他者との関わりを通した中で、自分を大切にできる子を育てたいと考えた。そこで、「自分を大切にし、友達との温かいかわりを通して、たくましく生きる子ども」という児童像を掲げた。

3. 自尊感情等に関する調査

本校児童の自尊感情（自己肯定感）の実態を知るために、2つの実態調査を行った。

(1) 自尊感情調査

山崎勝之氏の『自尊感情革命』(注5)を読み、本校の研究について相談したところ、鳴門教育大学予防教育科学センター研究補佐員の横嶋敬行氏の協力を得て、本校児童4年生～6年生の自尊感情の状態を明らかにしていただいた。

①調査方法

横嶋・内山・内田・山崎(2017)で信頼性並びに妥当性が検証されている児童用の紙筆版自尊感情潜在連合テスト (paper and pencil version of Self-Esteem Implicit Association Test:以下、SE-IAT-Cと呼ぶ)を使用した。

横嶋氏によると、小学校担任教員の協力を得た研究(横嶋他, 2017)では、SE-IAT-C得点が高い児童は担任教員から自律的な行動特徴が多く、攻撃性や不安に基づく行動特徴が少ないと報告されている。一方で、SE-IAT-C得点が高い児童は自律的な行動特徴が低く、攻撃性や不安に基づく行動特徴が多いことが明らかになっている。つまり、得点高群児童の様子は、「自分のペースでのびのびと行動している」、「落ち着いておだやか」、「周囲の友だちと良好な人間関係が築けている」と考えられ、得点低群児童の様子は、「先生や周囲の児童に気を使って合わせてし

まうことが多い」、「不安や怒りの感情による落ち着かない様子が目立つ」、「友人関係によるトラブルが多い」と考えられるようである。

調査データの詳細として、本校のデータに対して、SE-IAT-Cの得点化基準に基づき得点化を行うと同時に、一定数のエラーが確認された者を分析から除外し、有効回答者を抽出した。また、比較校として学校は全部で8校（小学校4年生から6年生）のデータは2016年から2020年の期間で調査が行われたデータを使用しているとのことである。

②分析と結果

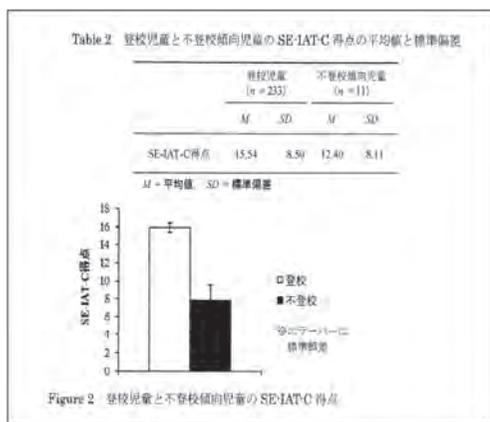


図1 登校児童と不登校児童のSE-IAT-C得点

潜在的自尊感情について分析の結果、本校全体の傾向は比較的良好であることが考えられた。学年における差は、4年生よりも6年生の平均値が有意に高いという結果であった。

登校児童と不登校傾向児童の潜在的自尊感情については、その平均値を比較した結果、不登校傾向児童（平均値7.82）は登校児童（平均値15.91）の平均値よりも有意に低い値となっていた。

これらの結果から、本校の4年生から6年生の児童の潜在的自尊感情は、比較的高い傾向にあることが分かった。また、登校児童と不登校傾向児童の潜在的自尊感情の比較では、不登校傾向児童の平均値が低くなっているこ

とが分かった。

(2) 心と体の健康観察

①調査方法

児童自身が自分の体調や心の状態を自己分析するきっかけとして、養護教諭が作成したものが、「心と体の健康観察」である。（資料1）調査は、令和2年6月から毎月1回、一日の出来事が影響しない朝時間に実施している。全8問の質問項目で、当てはまらないものを0とし、1、2までの3件法とした。また、1と2を選んだ児童は、選んだ理由を書かせ、レジリエンス向上を図った。

調査終了後、担任が数値の入力と自由記述欄の確認を行い、児童からの「聞いてほしい人」の欄に丸印がついている場合は、速やかに担任等が面談を行っている。また、原本を養護教諭も確認し、養護教諭が気づいた点も併せて担任と確認を行っている。

②「心と体の健康観察」実施における成果

令和2年度は、始めた6月と夏休み明けの9月のストレス値が高かったが、徐々に落ち着き、冬休み明けの1月がどの学年でもストレス値が低かった。令和3年度は、4月と9月にストレス値が高かった。4月は新しい学年になり、クラスメイトや担任が変わるなど環境面の変化が考えられる。最低値は、昨年同様の1月が多かった。

この2年間の調査で、学年が変わる4月と長期休暇の夏休み後にストレス値が上がり、年明け後の1月が最もストレス値が低いことが分かった。また、ストレス値の平均は、令和2年より令和3年度の方が低い。コロナ禍の学校生活に慣れてきたことが考えられる。学年では、低学年ほどストレス平均値が高く、高学年になるほど平均値が低い。つまり、発達段階が低い児童ほど、学校へのストレスを抱えていることが多いと考えられる。

(令和2年度 「心と体の健康観察」) 図2

1月時点での各学年の合計得点 平均値・最大値・最小値

学年	1年生 (10月以降)	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	おひさま
平均値	4.0	2.9	3.3	2.8	2.7	2.6	2.2
最大値	4.7(10月)	3.5(10月)	4.3(9月)	3.2(9月)	3.0(9月)	3.4(7月)	2.7(11月)
最小値	3.3(1月)	2.1(1月)	2.1(1月)	2.3(1月)	2.1(1月)	2.0(1月)	1.7(1月)

*1年生は児童が自分で記入を始めたのが10月からのため、10月以降からの数値を計上している。

(令和3年度 「心と体の健康観察」) 図3

1月時点での各学年の合計得点 平均値・最大値・最小値

学年	1年生 (9月以降)	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	おひさま
平均値	1.6	1.8	1.5	1.1	1.4	1.4	1.4
最大値	2.1(9月)	2.5(4月)	1.8(7月)	1.7(4月)	1.8(4月)	2.1(4月)	2.4(4月)
最小値	1.3(12月)	1.5(1月)	1.3(1月)	0.7(1月)	1.0(1月)	1.1(1月)	0.5(7月)

*1年生は児童が自分で記入を始めたのが9月からのため、9月以降からの数値を計上している。

これらの2つの実態調査から、自尊感情は登校児童ほど高く、不登校傾向児童は低いこと。また、年齢の低い児童ほどストレスを受けやすいことが実態として見られた。

しかし、日々児童と接している教師の感覚では、打たれ弱い児童が増えていることは否めない。自尊感情が高い児童の中に隠れている別の因子があるような気がしてならない。

4. 令和2年度の実践

(1) プロジェクトの取組

令和2年度、学校研究を教科と領域の中で推進するために、3つのプロジェクトを立ち上げた。道徳と特別活動で児童に温かい心を育てる「学級経営プロジェクト」、算数を中心に分かった喜びを育てる「算数プロジェクト」、体育を中心にできた喜びを育てる「体育プロジェクト」である。各プロジェクトにそれぞれ3つのチームを組織し実践してきた。

①学級経営プロジェクト

<なかよしチーム>

自発的・自治的な活動を通じた人間関係づくりの支援を目的として、1年生から6年生までの縦割りで組織した「なかよしグループ」で、除草作業を行った。6年生が中心となって活動を進め、異年齢で協力して除草作業を行うことができた。

<すくすくスクールチーム>

不登校児童に対する有効な支援を探るため、実態調査（自尊感情調査）を行った。

<家庭きらきらチーム>

教育効果を促進させるため家庭との連携を試みた、学校研究だより「かけはし」を発行した。毎月の「心と体の健康観察」の結果や教育に関するコラム、学習実践の報告などを掲載した。

②算数プロジェクト

<ベーシックチーム>

算数の課題解決に必要な基礎的な力や基本学習の定着をねらいとして、各学級に「算数コーナー」を設置した。

<みんなで学ぼうチーム>

他者と共同で問題解決に取り組む学習形態の工夫を行った。授業内にグループ活動を取り入れ、ヒントコーナーの充実を図った。

<ふりかえりチーム>

振り返りによる自己評価や他己評価の工夫を実践した。自己評価は、観点別学習状況の観点に基づいて「進んで学習できた」、「話合いにより考えを深めた」、「わかった・できるようになった」について、4段階で評価できるカードを作成した。また、「今日の学習をどう生かすか」について自由記述とし、次時や自らの生活などに学習したことを生かそうとする意欲を促した。

③体育プロジェクト

<体育UDチーム>

学習過程をスモールステップで行うことができる教材教具の工夫として、ICTを活用した授業づくりを行った。

<達成感チーム>

体育科の領域ごとの「教師の言葉がけ集」を作成した。具体的肯定、具体的矯正を意識した言葉かけを授業内で実践した。

<子ども生き生きチーム>

学び合い活動を通して、自己有用感を高められる学習を工夫した。そこで、「ジャッジうちわ」を考案し、友達からの「○」（評価）をもらうことにより、児童同士の自然な対話が生まれた。



図4 ジャッジうちわ



図5 「ジャッジうちわ」を使用した例

(2) 授業実践の概要

①道徳科授業研究

<授業学年・授業者>

5年生・女性教諭

<授業概要>

「友のしょうぞう画」の教材を使い、登場人物に自分を重ねて考え、話し合うことを通

して、どんな時でも友達を信頼し、関係を深めようとする態度を養う。

<授業を見る視点>

- ・話し合い活動を通して、安心して本音が言える学級の雰囲気づくりをする。
- ・主体的に考え、活発な話し合い活動を展開する。

②特別活動「学級活動（1）」授業研究

<授業学年・授業者>

6年生・女性教諭

<授業概要>

3年生がクラブを楽しむになる取組を話し合う。

<授業を見る視点>

- ・出ている意見のよさを活かしながら、意見をまとめる。
- ・児童に自己有用感を感じさせるために、自分事として課題を捉えさせる。
- ・自分の属する集団の中で、自分が大切かを知らせる。

③算数科授業研究

<授業学年・授業者>

4年生・男性教諭

<授業概要>

算数科「計算のきまり」で、自力解決で児童一人一人に考えを持たせたり、グループの中で自分の考えを表現したりする活動である。

<授業を見る視点>

- ・問題解決に必要な既習事項を確認する。
- ・算数コーナー、ヒントコーナーを充実する。
- ・他者との関わり合いの中で、自分の考えを表現できるグループ活動を行う。

④体育科授業研究

<授業学年・授業者>

5年生・男性教諭

<授業概要>

マット運動で、自分の課題に合った場を選

び練習し、動きのよさを伝え合う。

＜授業を見る視点＞

- ・主体的な学びとして、自分で場を選んで行う、場の工夫をする。
- ・対話的な学びとして、ICTを使用することで学び合いの充実を図る。
- ・学びの充実として、友達へのアドバイスを



図6 演技後の自己の画像を確認

⑤特別支援学級教科別の指導「国語」

＜授業学年・授業者＞

おひさま学級・男性教諭

＜授業概要＞

物語の人物の気持ちについて想像を広げ、進んで物語を読んで感想を持つ。

＜授業を見る視点＞

- ・主体的な学びとして、デジタル教科書を活用した学習内容の可視化、児童の個人目標に対する支援プランの充実、支援員さんによる支援のタイミングへの指示を行う。
- ・対話的な学びとして、発表を通して、コミュニケーションの大切さを実感させる。
- ・学びの実感として、自分の考えをもって発表できる支援をする。

(3) 成果と課題

自尊感情に関する調査（4年生～6年生）と本校児童の「心と体の健康観察」から、本校児童の実態が明らかになった。また、毎月行ってきた「心と体の健康観察」から、児童

の変容が見えてきて、丁寧に児童へ対応することができた。

自尊感情を高める手立てとして、次の5点が見えてきた。

児童全員が自分の考えを持つことができる配慮をすること。ヒントコーナーを設置して学習支援を行うことや、自分の考えを出しにくい児童の言葉を丁寧に聞き出し、補うことなど。

板書に一人一人の名札を貼ること。特に特別支援学級では、自分の感想が目に見えてわかった。通常学級では、自分の感想に自信が持てた。

話し合い活動に全員が参加できる配慮をすること。グループ内での発表は、意見の数が少ない児童から発表すると話し合いに参加できた。

ジャッジうちわなどの他己評価を行うこと。友達からのアドバイスや称賛は、その児童の自信につながった。

教師は、児童のどんな考えも、まず受け止めること。

課題として、研究的が絞れていなかった点があった。自尊感情を高めていくのか、不登校児童や不登校傾向児童への手立てを考えていくのか、曖昧であった。

また、令和2年度は、コロナ1年目で規制されることも多く、一人一人が意識して研究に取り組みにくい状況であった。さらには、不登校児童に対する具体的な手立てが考えられなかった。

5. 令和3年度の実践

令和2年度の研究から、不登校や不登校傾向にならない児童を増やすために、また、自分の自信が持てない子や友達作りが難しい子など、様々な人間関係づくりの難しさを感じている児童を、よりよい学級経営を行うことで、一人一人の自尊感情を高めていくことがよき人間関係づくりにつながると考えた。

そこで、令和3年度の研究副題を「児童の

自尊感情を育む学級経営のあり方を探る」とし、道徳、学級活動の指導を通して取り組んだ。

目指す児童像は、令和2年度と同様に「自分を大切に、友達との温かいかわりを通して、たくましく生きる子ども」とした。

「自分を大切に」は、まず自分を好きになることである。それには、自分の長所や短所を知って自分自身をよく理解することが大切である。「友達との温かいかわり」とは、まず友達の考えをしっかりと聞いて受け入れることや、人の気持ちを理解し、友達に前向きな声掛けができることである。つまり、お互いを受け入れる関係性があるということである。「たくましく生きる」とは、自分の考えを自分の言葉で伝えられること。そして、困った時には困ったと言えたり、分からないことを分からないと言えたりできることである。つまり、失敗してもチャレンジしようとする力や仲間とともにさらに良くなろうとする気持ちが湧き出ることである。

このように、一人一人を認め合える、温かい学級風土のある学級経営を行うことが、目指す児童像につながると考えた。

(1) プロジェクトの取組

目指す児童像を具現化するために、よりイメージしやすい3つの視点を作った。そして、3つのプロジェクトにそれぞれの仮説を立てて実践した。

①生徒指導プロジェクト

仮説1「自分のよさを知るとともに、安心して過ごせる環境があれば、学校風土の素地づくりができるであろう。」を実現するために3つのチームで取り組んだ。

<よさ探しチーム>

自分のよさを知る工夫について取り組んだ。学期に1回、自分のよさを知るためのアンケート「☆いくつ」を作成した。(資料2)自

分で自分のよさを振り返ることができたとともに、クラスの友達から見た、自分のよさも知ることができ、「よさである〇〇を伸ばしていこう。」という気持ちを持つ児童が増えた。また、1学期から3学期まで、同じ内容の項目だったので、学期ごとに内容を変えて取り組んでもよかった。

<安心環境作りチーム>

安心して学校生活を送るための工夫について取り組んだ。学期に1回の児童との個人面談、毎月の「心と体の健康観察」、スクールカウンセラーによる教育相談、「あのねポスト」の設置を行った。「あのねポスト」は、校長室前に設置し、自分のこと、友達のこと、家庭のこと、先生のことなど、言葉では相談しづらい児童は、手紙に書いてポストに投函できるようにした。

毎月のアンケートや個人面談で、いじめや児童の悩みなどを早期に発見し対応することができた。また、アンケート結果から、課題のある児童に対し組織的にどのように対応していくのかが不明瞭であった。

<事例収集チーム>

教師の資質向上の工夫に取り組んだ。教師が児童への具体的な対応を学ぶための取組として、事例シートを作成した。いじめ問題等にも活用していけるような事例シートができたが、事例を集めるまでには至らなかった。

②道徳プロジェクト

仮説2「道徳的实践へとつながる、道徳性を養うことで、互いに認め合える学級風土の素地づくりができるであろう。」を実現するために2つのチームで取り組んだ。

<授業チーム>

授業時数35時間を確実に実施するために、職員室前掲示板に年間指導計画を掲示し、授業を行ったら教材名にシールを貼り、授業の進捗状況を可視化した。担任の意識も高まり、確実な授業時数の確保ができた。また、地域

へのアピールにもなった。

学年会で中心発問を吟味した。15分以内で、教材研究として中心発問を考えた。わずかな時間だが、若手の先生の教材研究の助けとなり、学年で足並みを揃えることができた。

授業で児童名を挙げて褒める取組を行った。導入や終末で、本時の内容項目に関わる行動を取っていた児童の名前を挙げて紹介した。褒められた児童は自信をもつことができたが、高学年になると、周りの目を気にする児童もいたので、発達段階によって名前の挙げ方を配慮する必要があった。

<環境チーム>

道徳コーナーを、職員室前廊下と学年掲示板に、その月の学級目標にあった道徳の題材を掲示した。これは、道徳の授業の様子を保護者の方に周知していただくことにつながった。

毎月の学年だよりに道徳コーナーを設け、道徳の授業の様子や感想を載せた。これは、児童の次時の意欲にもつながった。

各教室に道徳コーナーを作成し、児童の感想を掲示した。しかし、統一して作成しなかったため、各担任のやり方に任せてしまい十分にできなかった。

③特別活動プロジェクト

仮説3「友達との温かい関わりを意図的・計画的に授業に取り入れていけば、共感的な人間関係が育まれて、たくましく生きる子ども像に近づくであろう。」を実現するために2つのチームで取り組んだ。

<授業チーム>

提案理由の掲示を工夫するために、各クラスに参考となる掲示物を配布し活用してもらった。それにより、同じ土台に乗って話し合えるため、交流が活発になった。

また、ICTを活用し、共通理解事項をクロームブックに映すことで、話し合いもスムーズになった。

<学級の時間チーム>

学級の時間（月曜日の昼休み）での効果的な過ごし方の工夫を行った。今までクラス内のレクやエンカウンターなど行ってきた実践を、アンケートを取って収集した。やるべきことを明確にしたので、グループで協力し合いながら活動ができた。

(2) 授業実践の概要

①-1 道徳科授業研究

<授業学年・授業者>

4年生・男性教諭

<授業概要>

「いのりの手」の教材を使い、友達と互いに理解し、信頼し、助け合う態度を養う。

<授業を見る視点>

- ・長所を生かす工夫とし、終末で価値に絡めて具体的に児童の名を挙げて称賛する。
- ・人の気持ちを考えられる工夫として、共感的な発問、投影的な発問、二分法を使って話し合う。
- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、少人数での意見交換を行う。

①-2 道徳科授業研究

<授業学年・授業者>

6年生・男性教諭

<授業概要>

「おばあちゃんの指定席」の教材を使い、心づかいの尊さについて、親切・思いやりの態度を養う。

<授業を見る視点>

- ・長所を生かす工夫として、終末に学級児童のよいところを挙げて称賛する。
- ・人の気持ちを考えられる工夫として、共感的な発問や児童の反応を2つに分け、それぞれの気持ちを問うようにする。
- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、考えをノートに書いて少人数での意見交換を行う。教師は励ましや相槌を打つように

する。

①-3 道徳科授業研究

＜授業学年・授業者＞

1年生・女性教諭

＜授業概要＞

「くりのみ」の教材を使い、うさぎの優しさに触れ涙を流すきつねの気持ちを中心に考え、話し合うことを通して、身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気付き、困っている時には互いに助け合おうとする心情を育てる。

＜授業を見る視点＞

- ・長所を生かす工夫とし、終末で価値に絡めて学級児童の良いところを挙げて称賛する。
- ・友達の考えをしっかりと聞ける工夫として、共感的な話の聞き方（「聞き方名人あいいうえお」）を意識させる。
- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、ペア活動で話し合う場面を設ける。

②-1 学級活動（1）

＜授業学年・授業者＞

2年生・男性教諭

＜授業概要＞

クラスみんなが協力し合える「2-3協力運動会」になるように話し合う。

＜授業を見る視点＞

- ・自分の長所と短所が分かる工夫として、実践後に丁寧な振り返りをする。
- ・手助けを受け入れられる工夫として、「まとめる」段階で使えるまとめ方の指導を行う。
- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、提案理由でキーワードとなる言葉を別に掲示する。

②-2 学級活動（1）

＜授業学年・授業者＞

おひさま学級・男性教諭

＜授業概要＞

集会に向けて、クラスが「もっとなかよくなる」ための活動の工夫を考えて話し合う。

＜授業を見る視点＞

- ・自分の長所と短所が分かる工夫として、学級会ノートによる振り返りを丁寧に行う。
- ・友達の考えをしっかりと聞ける工夫として、友達の考えをクロームブックのジャムボードを使って受容し、自分の意見に固執しない態度を図る。
- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、自分の考えを事前にまとめ、発表できる準備をする。

②-3 学級活動（1）

＜授業学年・授業者＞

3年生・男性教諭

＜授業概要＞

お互いのよさを伝え合える集会を考える。

＜授業を見る視点＞

- ・自分の長所と短所が分かる工夫として、実践後の振り返りを丁寧に行う。
- ・友達の考えをしっかりと聞ける工夫として、相槌やうなずきなどの肯定的な聞き方を指導する。
- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、提案理由でキーワードとなる言葉を別に電子黒板に掲示する。

②-4 学級活動（1）

＜授業学年・授業者＞

5年生・女性教諭

＜授業概要＞

リーダーとしてのコツを教えてもらえるような集会の内容を考えよう。

＜授業を見る視点＞

- ・自分の長所と短所が分かる工夫として、実践後の振り返りを丁寧に行う。
- ・友達の考えをしっかりと聞ける工夫として、話し合いを共通理解しておくことでスムーズ

に話し合えるようにする。議題がクラスの問題となる切実感ある内容なので、意識が高められる。

- ・自分の考えを言葉で伝えられる工夫として、提案理由をキーワード化する。

(3) 成果と課題

児童の自尊感情が向上したと考えられた。その理由の一つは、道徳、学級活動の継続した取組により成果が見られたからである。授業内容の工夫により、児童がより授業に参加しやすくなり、自分の意見を表現しやすくなったと考えられる。そのことにより、クラスの中の一員、仲間としての存在意識が高まり、自尊感情も高まったと認識した。

また、道徳と学級活動（1）の実施記録表を掲示することで、道徳と特活に対する教師の意識が高まったと考えられた。

もう一つの理由は、各プロジェクトの取組による成果である。特に、「☆いくつ」の取組は、自分のよさを自己評価と他己評価の両方から知ることができ、自尊感情を高めることに効果的であった。

「心と体の健康観察」は、令和2年度より継続して毎月全学年が取り組んでいる。そのお陰で、児童の変容を素早く知ることができ、担任や養護教諭等が早急に児童へ声掛けをすることができた。

課題は、自尊感情についての評価が見えにくい点である。授業の手立てを行ったことで自尊感情が高まったのかが評価しにくい。また、学級によって認識が様々であるので、足並みを揃えて授業や指導を行っていくことが大切である。再度、前回実施したアンケート調査を取り、結果を比較検証する必要もあると考えられた。

6. おわりに

令和2年度から始まった自尊感情に関する本校の研究は、令和4年度より体育科に視点

を当てて継続して行っている。この2年間の研究で得られた成果と課題を精査し、よき学級経営を行う手立てを、体育科でも活用できる方法を見つけ出すことがねらいである。

また、コロナ禍の2年間で児童の体力の低下が著しい。体力向上も考えての研究である。児童の体育科の技能向上に偏るのみならず、できた喜びを実感することや、もっとやりたい、友達と一緒に高めたいなど、自尊感情を高めることも目的である。つまり、体育科を通して、児童の自尊感情と技能の両方を向上させることが目的である。

令和4年度は、児童の実態を探りつつ、多方面から視点を当てて、自尊感情と技能の向上を行っていききたい。

<注>

- 1) 東京都教職員研修センター、「紀要第11号」、平成23年
- 2) 高橋さなえ、「産業保健新聞」、2018.6.14
- 3) 国立教育政策研究所、『「自尊感情」?それとも、「自己有用感」?』、平成27年
- 4) 文科省、「自己肯定感を高め、自らの手で 未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）」、P15
- 5) 山崎勝之、『自尊感情革命』、福村出版、2017

資料1 「心と体の健康観察」

川越市立川越小学校



心と体の健康観察【9月】

ねん くみ ばん なまえ： _____

この「心と体の健康観察」は、みなさんの心と体の様子をふりかえるために、つかいます。
「答えたくないな」とおもう人は、無理に答えなくてもいいですよ。

**この1ヶ月で、次のことがどれくらいありましたか？
あてはまる答えのところを、○でかこみましょう。**

	しつもん	0	1	2
1	夜 なかなか ねむれない ことがある	よく ねむれている	ねむれない こともある	ねむれなくて こまっている
2	朝 早く 目が さめてしまう	ぐっすり ねむれている	早く起きる こともある	すごく早く 起きてしまう
3	ごはんのとき おなかがすかない 食べたくない と思う ことがある（食欲がなくなった）	もりもり 食べている	食べたくない ときがある	いつも 食べたくない きもち
4	いらいら したり すぐにかっとなってしまう（おこりっぽくなった）	おだやかに すこせている	たまに いらいらして しまう	いつも いらいらして こまっている
5	頭 や おなか が 痛いときがある	元気に すこせている	1週間で 2～3回くらい 痛い	毎日 頭やおなか が 痛い
6	元気がでないなあと 思う ことがある	げんきに すこせている	1週間で 2～3回くらい 元気がでない	毎日 元気がでない
7	心配な 気持ち がある	心配はない	ちょっと 心配がある	とても心配な ことがある
8	だれかに あまえたいなと 思うときがある（そばにいたいな、話したいな）	あまえたい 気持ちは とくにない	1週間で 2～3回くらい あまえたい	毎日 あまえたいと 思う ことがある

9 学校は楽しいですか。	0. とても 楽しい	1. 楽しい	2. つまらない	3. とても つまらない
10 まわりの人にいやなことをされたり 言われたりしたことはありますか。	0. ない	1. ほほない	2. たまにある	3. よくある

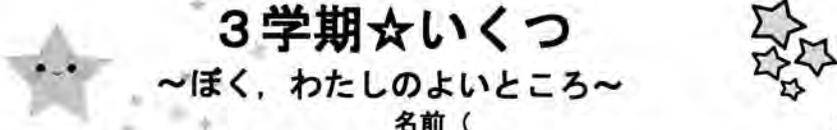
10の質問で1～3に○をつけた人はどんなことがあったか教えてください。
たたかれた 悪口をいわれた ものをかくされた そのほか（ ）



直接お話ししたいな、相談したいな、という人は だれに相談をしたいか ○をつけてね

1. 担任の先生 2. 保健室の先生 3. カウンセラーの山田先生 4. _____先生

資料2 「☆いくつ ～ぼく、わたしのよいところ」



3学期☆いくつ

～ぼく、わたしのよいところ～

名前 ()

1: 下の①～⑬の中で、自分に特に当てはまるものを2つ選んで、☆をぬります。

2: 先生や友達に、あなたに特に当てはまるものを1つ選んでもらい、☆をぬってもらいましょう。

3: 最後に、自分がぬった☆と他の人がぬってくれた☆をくらべてみましょう。

※ ㊦はがまん玉、㊧はしんせつ玉、㊨はみつつけ玉となります。

	ないよう	じぶん	先生、友だち
①	やさしい(親切)㊧	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
②	おもしろい(明るい)㊧	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
③	たよりになる㊧	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
③	げんき元気があいさつ・言葉づかい㊧	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
④	じかんまも時間を守って行動する㊦	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑤	さいご最後までがんばる㊦	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑦	そうじやお手伝いをがんばる㊦	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑧	よく手をあげる	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑨	うんどう運動がとくい	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑩	えじょうず絵が上手	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑪	じじょうず字が上手	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑫	ほん本をたくさん読んでいる㊦	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆
⑬	ものしり㊦	☆	☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆

ふりかえり